

小林市消防団長

やの たかや
矢野 孝也 さん (57)

27歳の時に第1分団第4部に入団。理容師として働く傍ら30年間消防団活動続け、今年4月に団長に就任した。

小林市消防団

現場に強い消防団を築きあげたい

「消防団は、さまざまな職種の人と出会え、横のつながりが広がる場所です」。そう話すのは、小林市消防団の新たな顔となった矢野孝也さんだ。

矢野さんが入団したのは、27歳の時。友人からの紹介がきっかけだった。

以来、理容師として働く傍ら、数々の火災現場に出勤してきた。時には、先輩団員の愛のこもった指導に戸惑うこともあった。それでも、仲間を支えられながら、活動を続けてきた。

「消防団に興味はなかったですし、すぐに辞めてやると思っていました」と笑顔で浮かべながら当時を振り返る矢野さん。

長年の現場での経験と活動へのひたむきな姿勢が認められ、幹部へ昇格。そして今回、団長に就任した。

就任時には、先輩団員から涙ながらに祝福され、その期待とともに改めて団長

の責任の重さを感じた。

「前団長が築いた土台を引き継ぎながら、自分の色を出していきたいです。そして、地域の人たちから頼られる消防団を築き上げていきます」と力を込める。

現在、消防団は団員の高齢化や担い手不足が課題となっている。大会や訓練の負担から、活動継続を不安視する声も少なくない。それでも矢野さんは、大会や訓練の重要性を強調する。

「機械の扱いに慣れることで、誰でも火災対応ができるようになりますし、地域を守るためには欠かせないことです」と話す。

地域防災の要として最前線に立つ矢野さん。その背中には、地域を守ろうとする強い思いがにじむ。

新団長の指揮のもと、消防団はこれからも地域を支える存在として活動を続ける。その先にある、市民の笑顔を守るために。

髪工房^{エフワン}で理容師として働く傍ら、消防団活動を続ける矢野さん。「髪切り中に出勤がかり、途中で抜け出したこともあった」と笑顔で話す

4月5日に開催された入退団式で、力強い訓示を述べる矢野さん。今年度は、新たに6人を迎え入れた484人の団員で活動に取り組みます



小林人

こばやしびと
Vol.135